

# キリスト教スペイン

1. レコンキスタ(国土回復運動、再征服)の進展
2. アラゴン連合王国(カタルーニャ＝アラゴン連合)と地中海
3. カスティーリヤ王国の発展
4. 「共存・共生」の時代—トレードの翻訳グループ
5. 14世紀の危機—ペストの蔓延、ポグロム
6. 中世後期の混乱—王権、貴族諸党派、都市民、農民のあいだの抗争

【コラム】サンティアゴ巡礼と中世キリスト教スペインの社会

【コラム】「三宗教の共存」からユダヤ教徒追放まで

# イスラーム勢力のイベリア半島進出(711年～)



# イスラーム勢力と協定を結んだ地域

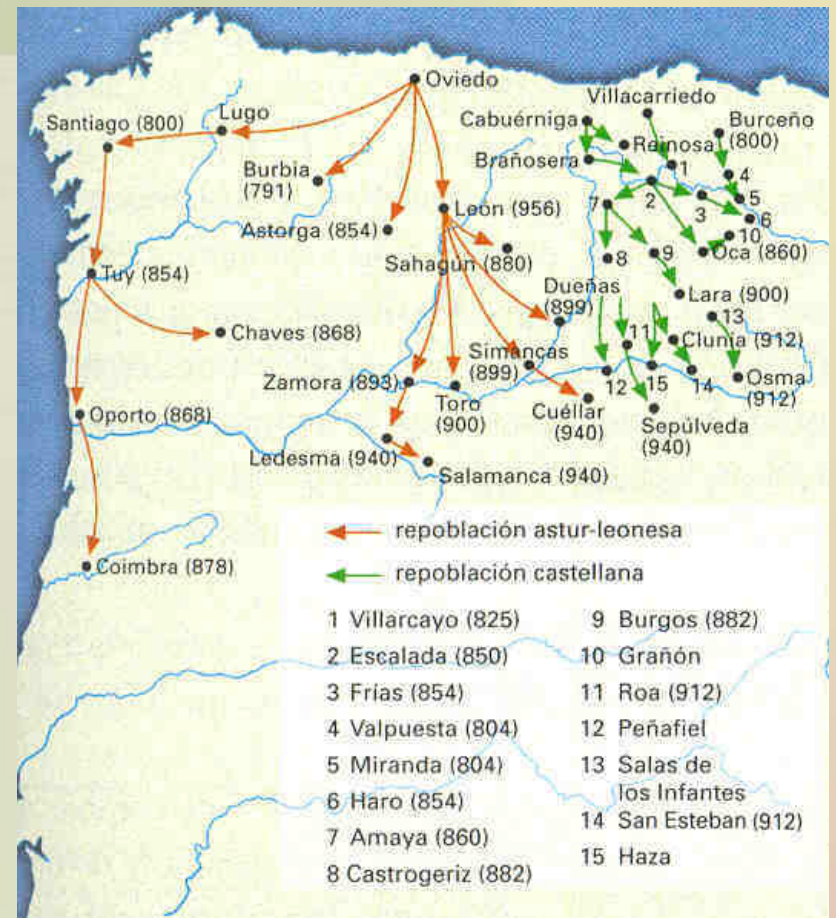


# 1. レコンキスタ(国土回復運動、再征服)の進展

## ○アストゥリアス王国とレオン王国

- コバドンガの戦い(722頃)
- アストゥリアス王国の成立 ※西ゴート王国継承の「神話」
- サンティアゴ・デ・コンポステーラ教会の建立
- ドウエロ川流域の再植民——「無主地」、「自由小土地所有農民」
- レオン王国の成立
- 「皇帝」理念の導入





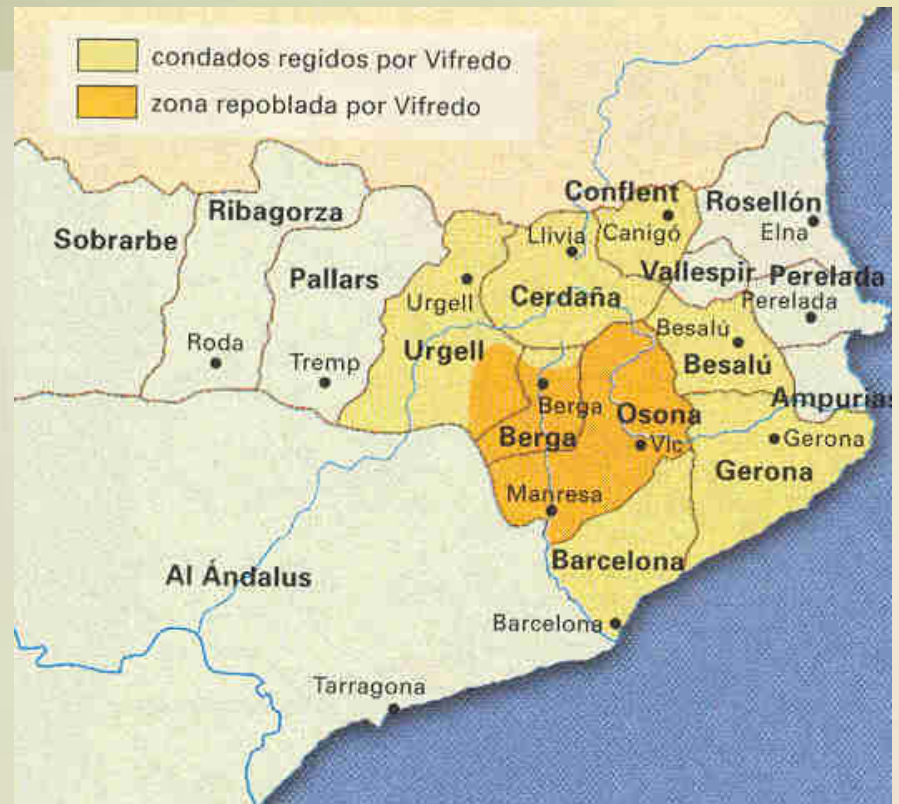
# ○カスティーリャ伯領とポルトゥカーレ伯領

- カスティーリャ伯フェルナン・ゴンサレス
- カスティーリャ=レオン王国の成立(1037年)
- ポルトゥカーレ伯領 ⇒ポルトガル



## ○スペイン辺境領からバルセロナ伯領へ

- フランク王権による再征服・再植民
- アル・マンスールの侵攻 (985)
- バルセロナ伯領の事実上の独立

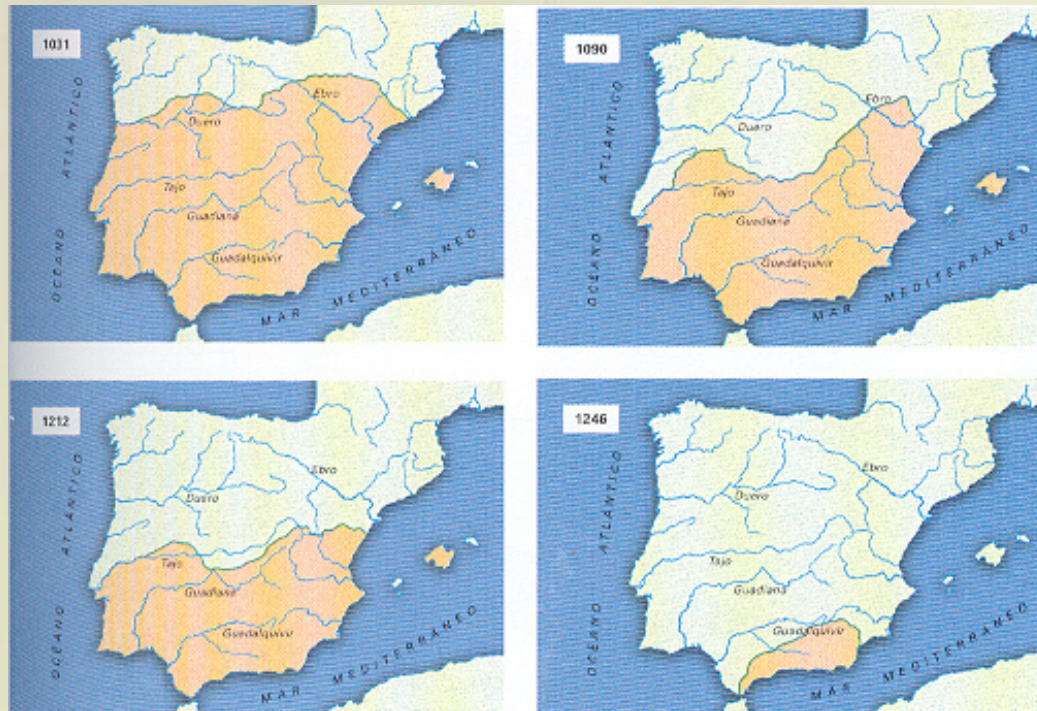


## ○ナバーラ王国の覇権

- サンチョ3世  
(在位1000~35)



# 国土回復運動(レコンキスタ)の進展





## 2. アラゴン連合王国(カタルーニャ＝アラゴン連合) と地中海

### ○アラゴン王国とバルセローナ伯領

- アラゴン王国の成立
- ペトロニーラとバルセローナ伯ラモン・ベレンゲール四世の結婚(1137)
- ⇒アラゴン連合王国の成立
- 南フランスへの拡大の試み——ミュレの戦い(1213)に敗北
- ハイメ(ジャウマ)一世の治世(在位1213～76)
- ⇒バレアレス諸島(1229)とバレンシアの再征服(1238)。
- バルセローナに「百人会議」
- カタルーニャとアラゴンの身分制議会(コルテス)開催
- 「シチリアの晩鐘」(1282)、アラゴンのシチリア進出
- ジェネラリタート(議会常設代表部)を組織
- 地中海商業の発展と都市の拡大——コンスラード(商業裁判所)
- カタルーニャ人傭兵アルモガバレスの冒険
- 「アラゴン海洋帝国」の構築

# FORMACION DE LA CORONA DE ARAGON

-  Frontera con el Islam hacia el año 1000
-  Centros de resistencia musulmana
-  Conquistas de Alfonso I y Ramón Berenguer IV  
Frontera hacia 1150
-  Zonas de expansión catalano-aragonesa
-  Zonas de gran influencia
-  Feudatarios o aliados





# 3. カスティーリャ王国の発展

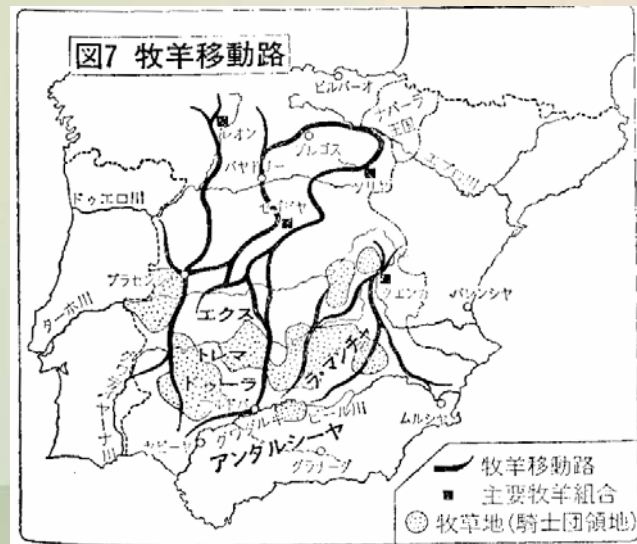
## ○カスティーリャ=レオン王国

- 後ウマイア朝の崩壊(1031)、レコンキスタの進展
- サンティアゴ巡礼路の拡大 ※三大聖地
- アルフォンソ六世(在位1065~1109)に「皇帝」の称号
- エル・シッドの活躍 ※『わがシッドの歌』
- コルテス(議会)の成立(1188)
- ラス・ナバス・デ・トロージャの戦い(1212)
- カスティーリャ王国の成立(1230)——カスティーリャとレオンの再統合



# ○カスティーリヤ王国の「大レコンキスタ」

- 第三次ターイファ王国への攻勢  
コルドバ(1236)、ムルシア(1243)、  
ハエン(1246)、セビーリヤ(1248)
- アルフォンソ10世の治世(在位1252~84)  
全国メスタ(移動牧畜業者組合)の再編  
再植民運動の本格化  
『七部法典』
- アルフォンソ12世(在位1312~50)  
サラードの戦い——マリーン朝に勝利  
アルヘシーラス攻略



# 4. 「共存・共生」の時代—トレードの翻訳グループ

## ○12世紀のトレード——トレードの翻訳グループ

⇒12世紀ルネサンスへの影響

ユダヤ人・モサラベの協力、アラビア語文献のカスティーリャ語訳

## ○『聖母マリア賛歌集』

聖母マリアの奇跡譚

※ユダヤへの差別・偏見(後述)



参照:「三宗教」の共存からユダヤ教徒追放まで(Column Focus 2)

# トレード景観







# 黒死病の流行



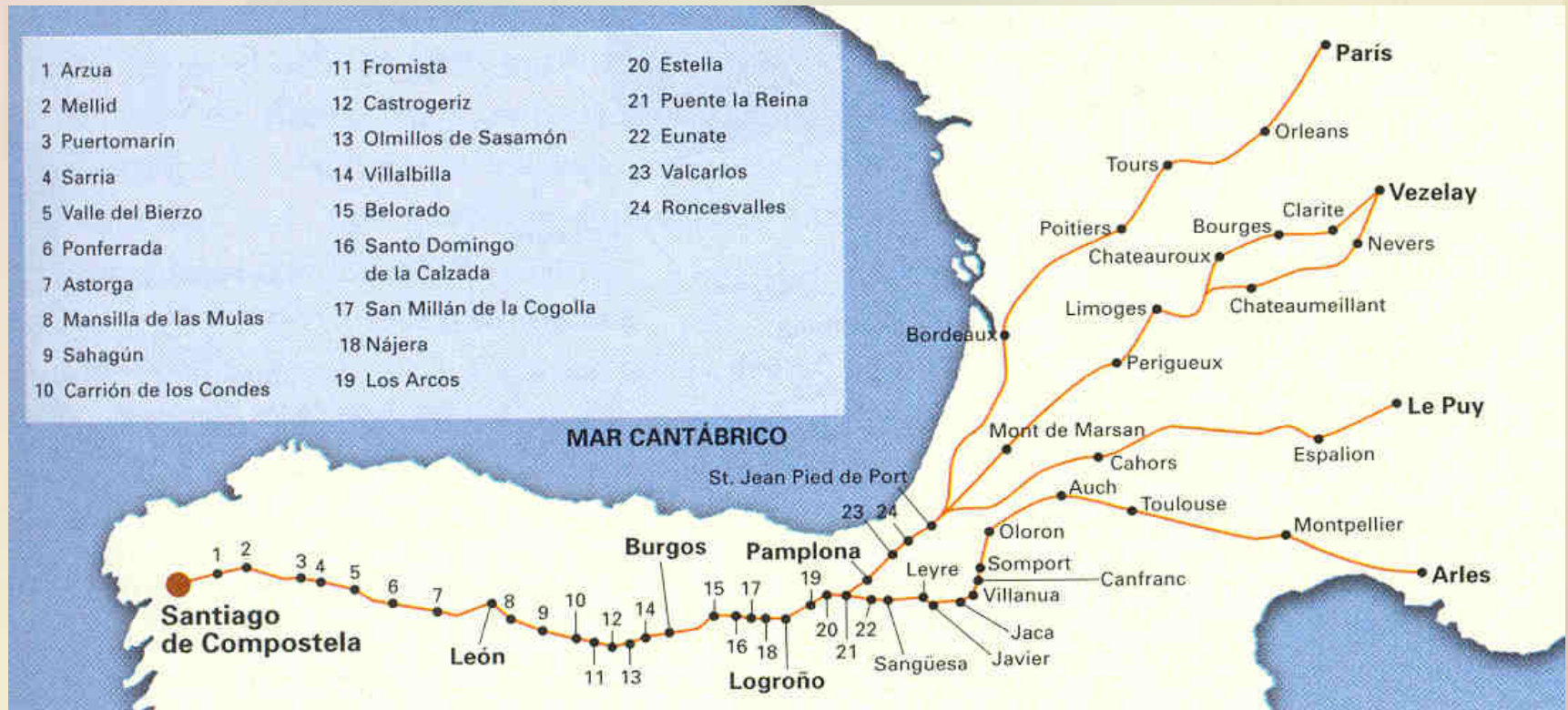
## 5. 14世紀の危機—ペストの蔓延、ポグロム

### ○封建制の危機

- ・ 1348年、ペストの蔓延。カスティーリャでは15～20%の人口が失われる。
- ・ ペドロ1世とエンリケ・デ・トラスタマラの抗争、トラスタマラ朝の開始。新貴族の台頭。世俗所領の拡大。
- ・ 反ユダヤ感情の増幅。激烈な説教。民衆の不満の捌け口。「儀礼殺人」の噂の流布
- ・ 1391年、大規模なポグロム(ユダヤ人虐殺)が発生
- ・ コンベルソ(ユダヤ教からの改宗者)の出現
  - ⇒従来からのユダヤ問題
  - ⇒新たなコンベルソ問題



# [補論]サンティアゴ巡礼路

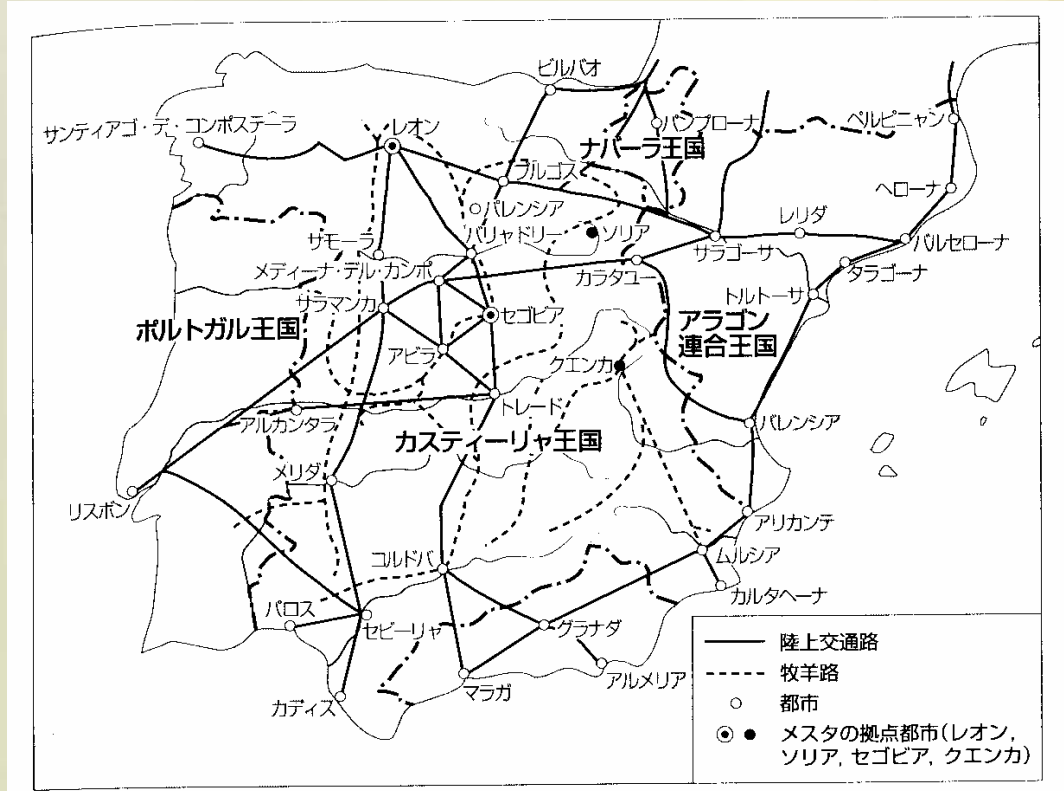


参照:「サンティアゴ巡礼と中世キリスト教スペインの社会」(Column Views 2)

# 6. 中世後期の混乱—王権、貴族諸党派、都市民、農民のあいだの抗争

## ○カスティーリヤ王国の優位

- カスティーリヤ経済の発展
  - 長距離移牧(トランスウマンシア)の拡大
  - フランドル地方への羊毛輸出
  - アンダルシーアの商品作物の生産
  - ジェノヴァ商人の活躍
- 人口の増大——15世紀末に約450万人



14～15世紀の主要都市と牧羊路

# ○アラゴン連合王国の沈滞

- カタルーニャ商業の衰退
  - 地中海交易の縮小
    - ・ 伝統的貿易路の変更。
    - ・ ジェノヴァ商人、カスティーリャ商人、ポルトガル商人との競合。
- 社会対立の激化
  - 「悪慣習」とレメンサ農民
  - バルセローナ市のビガとブスカの対立
- 人口の停滞、中世末に約100万人



# ○危機と政治的再編の動き

- カスティーリヤ王国における王権強化の動き

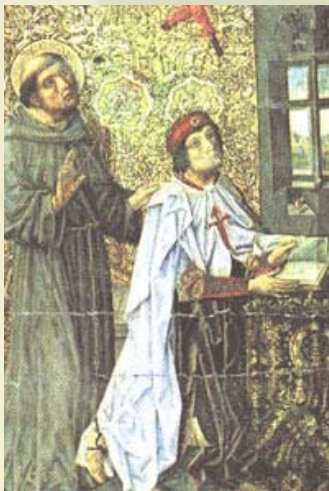
- フアン1世(在位1379~90):国王顧問会議(コンセーホ・レアル)の創設

- エンリケ3世(在位1390~1406):コルテスの最盛期。諸都市へのコレヒドール(国王代理人)の派遣。

- フアン2世(在位1406~1454):摂政政治。「アラゴンの王子たち」の介入。寵臣アルバロ・デ・ルナ。《絶対王権》の主張

- エンリーケ4世(在位1454~74):王権と有力貴族の対抗。エンリーケ廃位の動き(1465)とトロス・デ・ギサンド協定(1468)

- 混乱する王位継承問題



# ○アラゴン連合王国の内乱

-1410年、マルティン1世が継嗣なく死去  
→カスペ会議

-フェルナンド1世(在位1412~16):地中海政策の推進

-アルフォンソ5世(在位1416~58):「地中海帝国」の防衛に腐心。軍事支出の増大。  
「都市貴族」の反発。

-フアン2世(在位1458~79):

- 王太子ビアナ公カルロスとの対立。
- 王権とジェネラリタートの抗争。
- フランス王ルイ11世への援助要請(ルシヨンとセルダーニュ割譲を条件とする)。
- レメンサ農民の反領主闘争。

⇒王権は、カスティーリヤとの同盟を模索



# ○反ユダヤ運動とコンベルソ問題

- 1391年のポグロムの結果、コンベルソの続出
- コンベルソ=キリスト教徒、法的地位の平等
- コンベルソの市会への進出、高位聖職者に就任、経済活動の活発化
- 「隠れユダヤ教徒(マラーノ)」の存在
- ユダヤ教徒共同体(アルハマ)の存在
- 反コンベルソ感情の高まり: 司祭・修道士の説教。

- 中世末の社会的危機・政治的混乱
  - 民衆の不満の捌け口
  - 反コンベルソ暴動
- 「血の純潔」の観念
  - コンベルソの「血」を問題とする。特定団体からの排除

⇒ 異端審問制度の導入

⇒ ユダヤ教徒追放

⇒ 「血の純潔」規約の拡大







◆(右)ユダヤ人はバッジをつけることを禁じられた。ラビ・モーゼス・アラヘル(3頁を参照)のような著名な学者でさえもそれを付けた肖像が禁じられている。  
 (上)ユダヤ人とキリスト教徒の間の公の論争では、いつもユダヤ人が負け、彼らが正道を踏み外していることの証拠とされた。  
 (下)ユダヤ人との争いの末に、キリスト教徒は、ユダヤ人の息子など頭があらぬ方を向いて生まれてくれればよい、と祈った。赤ん坊は父親から引き離され、父親は後悔して洗礼を受けた(『聖母マリア聖歌集』より)。

◆前ページ キリスト教徒は、彼らのユダヤ人迫害を、彼らが信用に値しない者だという噂話を広め、信じることによって正当化した。ユダヤ人はキリスト誕生を告げる予言を盲目的に信じたが、それは悪魔の所業である、とする。見るもおそろしい悪魔が真実に對してユダヤ人の耳をふさぎ(右)、目を隠している(左)。(下)ユダヤ人が、聖体祭儀の聖体をハンマーで叩き壊し、刀で切り、火にかけようとしている姿が示されている。

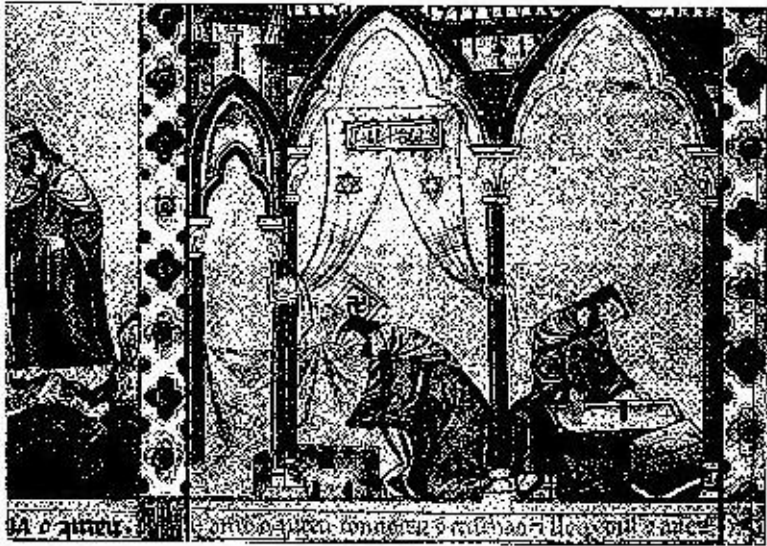
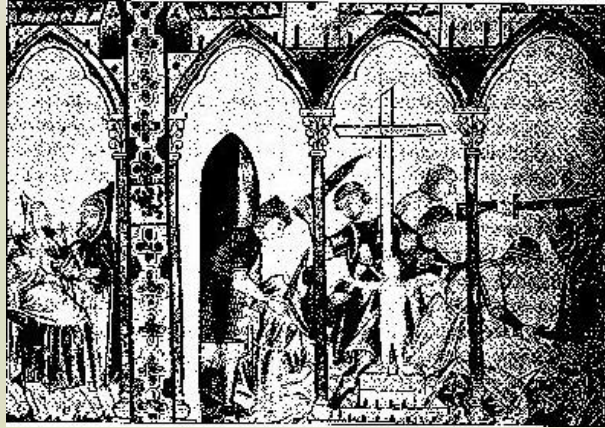
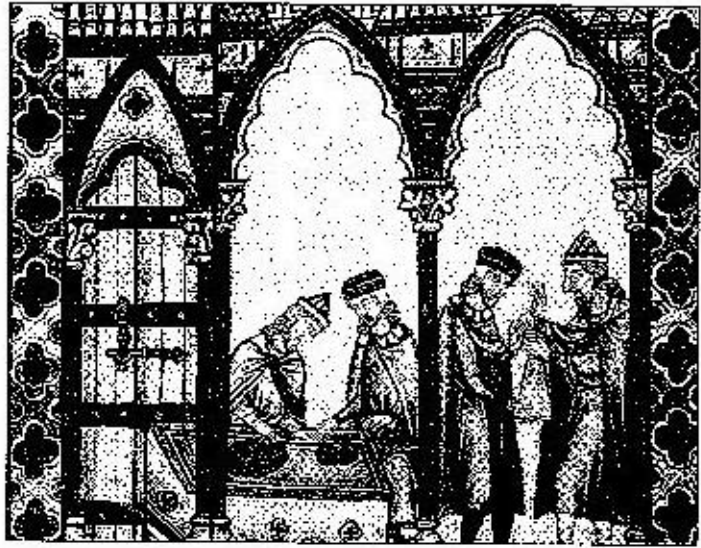














# 国土回復運動の終焉

- ポルトガル王国
- カスティーリヤ王国
- ナバーラ王国
- アラゴン連合王国
- グラナダ王国

